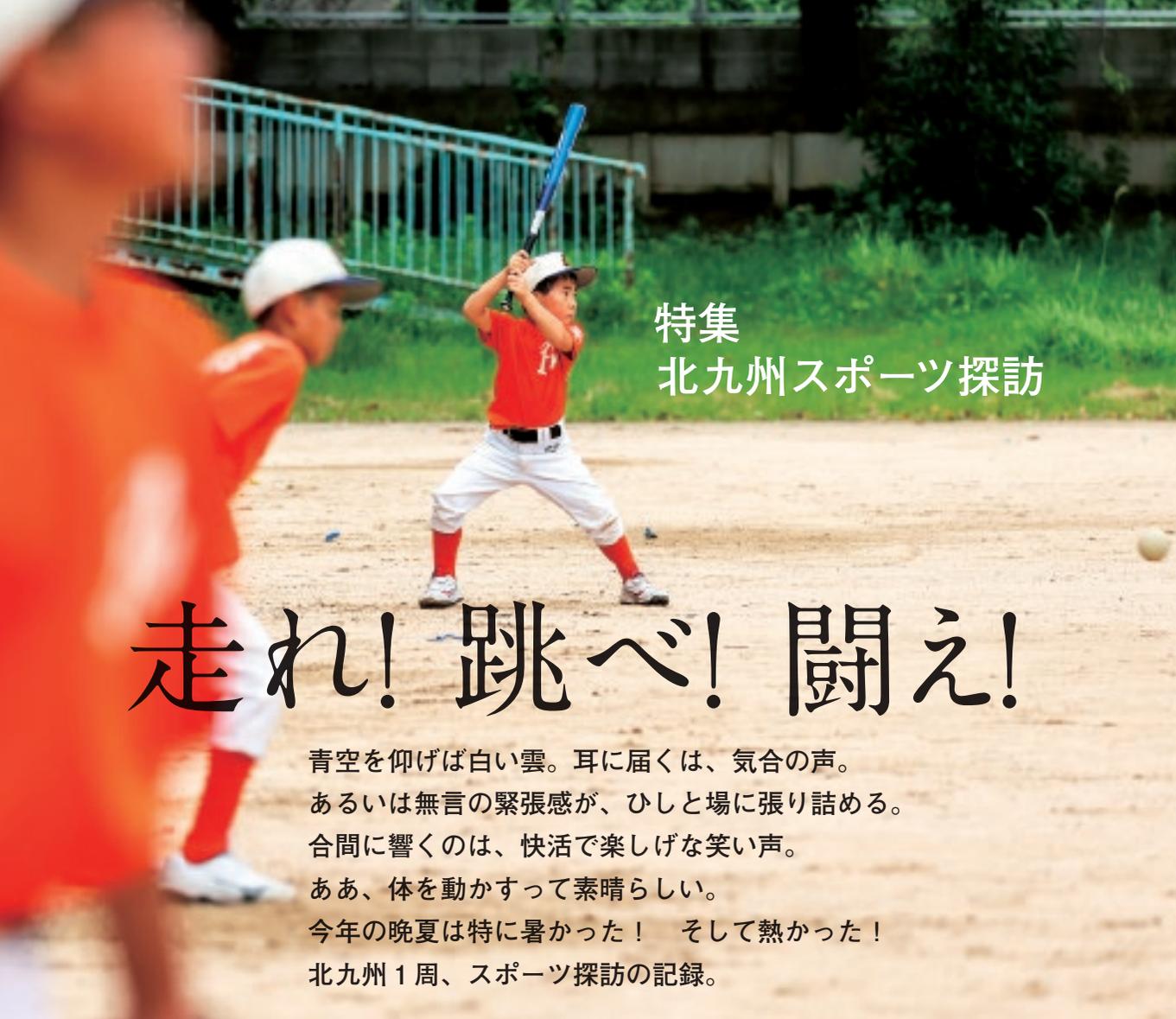


雲のうえ 31





特集 北九州スポーツ探訪

走れ! 跳べ! 闘え!

青空を仰げば白い雲。耳に届くは、気合の声。
あるいは無言の緊張感が、ひしと場に張り詰める。
合間に響くのは、快活で楽しげな笑い声。
ああ、体を動かすって素晴らしい。
今年の晩夏は特に暑かった! そして熱かった!
北九州1周、スポーツ探訪の記録。

「雲のうえ」31号
表紙写真: 高橋マミ
題字: 牧野伊二夫
アートディレクション: 有山達也
編集: つるやもこ
校正: 齋藤晋
©北九州市2019
本誌記事・写真・イラストレーションの無断転載を禁じます。

38 特集後編
写真: 高橋マミ、文: つるやもこ 絵: 牧野伊二夫
エアロビック/スポーツスタジオ S.D.E.C.I.T.Y 河野莉佳
サッカー/小倉南フットボールクラブ
車椅子バスケットボール/北九州足立クラブ

34 コラム
辻先生と入江三姉妹
「まっすぐに進んできた20年」
写真: 高橋マミ、文: つるやもこ 絵: 牧野伊二夫

写真: 高橋マミ、文: 稲垣えみ子 絵: 牧野伊二夫
パラチエリー/重定知佳
ボクシング/豊国学園高等学校ボクシング部
硬式野球/折尾愛真高等学校女子硬式野球部
ソフトボール/若園アローズスポーツ少年団
テニスコート/日本国際テニスコート協会テニスコート/小倉道場
ウエイトリフティング/柳田瑞季
ボウリング/青山エースレーン 岡本龍二・北谷蓮斗

2 特集前編
美しい人たちに
出会った夏

目次
雲のうえ31号

BESS北九州へ 行こう!!

丸い家、四角い家、三角屋根の家、シブい家…個性たっぷりの木の家
や楽しいインテリア、気持ちいいウッドデッキや庭。BESS展示場
には、「こんな風に暮らしたら、楽しそう!」のヒントがいっぱい。
今度のお休みは、BESS北九州展示場に出かけてみては?



自宅として楽しむログハウス 個性あふれる木の家の内部に潜入!

ログハウス=山小屋の別荘と思っ
ている人も多いのでは?実際は、
9割の人が自宅として住ん
でいます。木のぬくもりいっ
ぱいの家、街の中に、
今とどん増えています。



どんな365日に
なるんだろう?

読書? BBQ? どう使う? どの家にもウッドデッキが!

すべての家にキッチンがあるよ
うに、すべての家にウッドデッキが!
“大空の下のリビング”を、
暮らしに欠かせないアイ
テムと考えている BESS。
この空間、どう使うかは
住む人次第?

◎あきつログハウスは、
ウッドデッキの代わりに、
庭の楽しさを提案しています。



晴れた日が
楽しみになる空間!

理屈抜きに、五感で感じてみて! 吹き抜け・天窓のある空間

同じ㎡でも、広く明る
感じるのはなぜだろう?
心がおだやかになるの
は、どうしてだろう?
BESSのキーアイテム・
吹き抜けや天窓の持
ちよさはカラダで体感し
ないとわからない!

何だか
気持ちいいなあ…



「カッコいいね」「なんだこれ?」 楽しい暮らしが想像できるインテリア!

そこに住んでいる人の顔が
見えてくるような、凝ったイ
ンテリアも面白い!「物を見
て来たつもりが、小物や家
具に見入ってしまいました」
という人もしばしば。



ひとつひとつに
すごいこだわり!

このまま住めるんだ。 標準プランで実際の暮らしを体感

豪華絢爛なモデルハウス
に憧れて家を見て「展示
場は良かったけれど……」
という気持ちになるのは何
とも…。見学できる建物は、
等身大の標準プランだか
ら、実際に住んだときの感
覚がわかりやすい!



住み心地が
実際にわかる!

ご来場いただいたお客様の声

晴れた日の
デッキは
気分爽快!
[Nさんご家族]

私たち夫婦が一番のお気に入り
は、リビングから繋がるウッド
デッキ。天気の良い日にバー
ベキューしたら楽しそう
だね。なんて話ながら、ゆっ
くり満喫していました。

子どもが一番
はしゃいで
ました。
[Sさんご家族]

どのモデルも広々としているから、
子ども達が走り回るのが大変。
でもこんな家で暮らしたら、
家族みんなが元気に過ごせる
んだろうなって実感できました。

ますます
暮らしてみたく
なりました。
[Aさんご夫婦]

ログハウスに興味がありました。三角
屋根がスリと並ぶ様は社親。吹き
抜けや空が見える天窓など、普通
の家の違いがいっぱいで、楽し
そうに暮らさそうにイメージ
できました。

「住む」より「楽しむ」 BESSの家
BESS北九州展示場
Phone:093-291-1700
〒811-4331 福岡県遠賀郡遠賀町別府3713-3
●営業時間/AM10:00~PM6:00
●定休日/水曜・木曜(祝日は営業)
●交通/車:国道3号線遠賀バイパス側道沿い黒崎ICより約20分/古賀ICより約40分

http://kitakyushu.bess.jp/ BESS北九州 検索

BESS北九州案内看板
ここから900m
※入り口の道の方へ進んでください。

BESS安心総合保証
BESSなら建てる前も建った後も安心。
建て替え、住み替え、用地確保、住宅ローン等、お気軽にご相談ください。

<p>役務工事 完成保証</p>	<p>50年保証 システム</p>	<p>メンテナンス サポート体制</p>
----------------------	-----------------------	--------------------------

万一のことがあっても、保険法人が建物の完成まで保証します。

最長50年まで、免責なしで住宅瑕疵を保証します。

定期点検、24時間電話受付など建築後のサポートも万全です。



パラアーチェリー
重定知佳

70メートル先の的に向かって、ブン、ブン、と一定のリズムで矢を飛ばす。いちいち行き先を追わず、次の矢、次の矢へ。「放ったものは元に戻らない。うまくいったかどうかは感覚でわかります」。ミスしたなと思った時だけ、双眼鏡で結果を確かめる。

美しい人たちに出会った夏

写真：高橋マナミ
文：稲垣えみ子
絵：題字：牧野伊三夫

54歳にして、人生初の北九州にやってきた。

だが私は今、小倉城でもなく門司港レトロでもない、田んぼの中にぽっかり出現したグラウンドで、フライパンで煎られる豆のごとく、なすすべもなく太陽にジージージージ焼かれている。でもそんなことはどうでもいいのだった。

目の前で、胸をぎゅっとなつかまれる光景が繰り広げられていた。特別な何かではない。野球選手たちが準備運動をしている日常の光景。なのに何か切ない気持ちになってくる。

どうしてだろう？「やつら真剣だから、ですかね」と監督。精神論？と思いつつ、もう一度彼女たち（そう女子なのよ！）を見る。ダンスやら青竹踏みやら笑っちゃうような動作も。少しの無駄もないから動きが揃っている。つまりは心が揃っているのである。そうか。真剣ってことは美しいのだ。

夏、初めての北九州で、そんな美しい人を見る旅をした。きっかけは、同い年の友人で画家の牧野伊三夫さんからの電話である。

牧野さんは東京郊外で暮らしているが、隙あらば故郷の小倉に帰っている。故郷ラブなのだ。良い店もたくさん知っていて、一度小倉で飲みましょうと誘われていた。でも小倉は遠い。ふんざりがつかぬまま、送られてきた名物ぬかだきを

晩酌の肴に、小倉ってどんなところかなーと想像を巡らせていた。

そんなところへ再びの誘い。「スポーツを見に来ませんか」瞬時に浮かんだのは、ビールと焼き鳥を手で野球観戦などする我らの姿。でも北九州にプロ野球ないよね……サツカー？ラグビー？戸惑っていると、学校の部活や地域の少年団で頑張っている若い人を北九州の広報誌で特集するので、その記事を書きに来ませんかというのである。なるほど。それはちよつと面白そうだ。

実は、最近では以前ほどスポーツを見なくなつた。原因は1つではないが、何より五輪が近づくにつれ東京では皆お金の話ばかりするのが面白くない。騒ぎが大きくなるほど冷めていく自分がある。でも考えてみれば、スポーツつってもっと身近な、すぐそこにあるものだ。そうだよ私とて高校ではバスケ、大学ではテニスをしていた。笑えるほどヘボ選手だったのにひたすら必死だった。あれは一体何だったんだろう？

そうだ。スポーツつってもものに改めて会いに行こう。選手たちが暮らす北九州という町にも会いに行こう。牧野さんと焼き鳥も食べよう。

8月。東京があまりに暑かつたので九州はさぞかしと思ひ、短パンとビーサンという海水浴のようなスタイルで乗り込ん



一度に放つ矢は18本。放ち終わると的のところにまで行き、結果をスマホで撮影し、スルスッと矢を抜いて元の位置に戻る。深く刺さった矢をあまりに軽々と抜くのを見て、試しに抜かせてもらったろうんともすんとも動かなかった。



パラリンピックに向けて初めてコーチがついた。フォームを直されたことに戸惑ったが、徐々に結果がついてきた。「メンタルが弱いので、精神的に支えてもらっています」。熱くなる的ばかり見て前のめりになっていくところを、後ろから声をかけてもらってバランスを取り戻す。



だら、案外カラリとして暑くない。初めて、ということ、こういう細かいところで失敗するものだ。

●1日目

ホテルに着くと、待ち構えていた牧野さんがやあやあ近づいてきた。私の海水浴スタイルを上から下まで見て「自由だねー」とニヤニヤする。すみません間違えたんです。でも短パンにソックスの牧野さんだって、言っちゃあ何だが出取り少年（中年）のようである。

そんな怪しい我がまがまず向かったのは、運動公園にある弓道場。パラリンピック出場が内定した重定知佳選手しげさだちかの練習を見させていただくためだ。ジーコじーこと蝉せみが盛大に鳴きまくる公園に到着し、車を降りて建物の裏手へ回り込んでいくと突然、ぽっかり広い芝生の空間が現れた。

思わず息を呑む。

車椅子に腰かけ、長い髪をきりりと結んだ戦士のごとき女



稲垣えみ子

いながき・えみこ / 1965年、愛知県生まれ。一橋大学社会学部卒。朝日新聞入社。2016年退社後は、自身の生活やその中の気づきを綴り続ける。著書に『人生はどこでもドア』（東洋経済新報社）、『もうレシビ本はいらない』（マガジンハウス）など。



汗で光る髪、引き締まった体、リズムカ
ルな動き、キラキラの目……まるでジャ
ニーズ事務所に迷い込んだかのような。

豊国学園高等学校 ボクシング部

ボクシング

性が、はるか向こう的に黙々と矢を射続けている。これが本当に「はるか向こう」なのだ。小さな丸い円がウツスラ頼りなく見えるのみ。だが彼女がためらいなく放つ矢は、その円のさらに中心に次々吸い込まれていく。

一連の動きがまたすごい。矢を取り出し、矢をつがえ、弓を引き、静止して、放つ。何度やっても同じ動き、同じリズム、同じ速度で一つの無駄もない動作を繰り返している。お茶のお点前を見ているようだ。あまりの集中ぶりに誰も声をかけられない。勇気を出してスタッフが声をかけに行くと、戦士は遠巻きに見守る我々を振り返りニコツとした。

驚いたことに、アーチェリーを始めたのは4年前。短期間で日本のトップに上り詰めたのには訳がある。「練習はずーっとやっていますね。この前も、朝9時から夕方的が見えなくなるまで……」。中途半端で終わりがたくなくてと言う。

いいかげん、という文字は重定さんの辞書にはないのだ。中2の時、足が動きづらくなる進行性の病気が診断されて以来、誰も歩いたことのない人生を一つ一つ切り開いてきた。手に職をつけようとワールドプロ世界検定に挑み、引きこもりがちだった自分を変えようと車椅子テニスに挑む。前へ。前へ。それが彼女の人生だ。逃げ場がないと感じることもあるけれど、それでもとことん。なるほど彼女はトップアスリートだけれど、それ以前に道なき人生を突き進む戦士なのだ。話を終えると、重定さんは再び蝉の声の中に飛び込んでい

き、同じリズムで矢を放ち始めた。本番までの1年、暑い日も寒い日も彼女はこの生活を続けるのだ。いや……頑張ってください！ 海水浴と虫取りなんかに言われたくないだろうとは思ったが、それでも我々は同じセリフを繰り返した。サボりたくなかった時、この弓道場のことを想像してみようと思う。一人で矢を射ている彼女のことを考えようと思う。

続いては坂をぐんぐん上り、海の見える見晴らしのいい丘の上の高校に着く。爽やかな風を感じたのは一瞬で、目指す練習場に入ると、ひしめく若者の熱でサウナ状態。本日2つ目の観戦は豊国学園高校ボクシング部。

いやー懐かしい匂い！ 高校時代のバスケット部の部室を思い出す。青春だなあ。青春はクサイのだ。でもキラッキラの目をした男子たちがぺこりと挨拶をしてくれて、先ほどの弓道場とはまた別の天国のごとき空間である。でもおばさんにキラキラの若者は近寄りたく、その中にひょいと佇む、やわらかな雰囲気をもった監督にコンコン近づいたのであった。杉本幸夫先生。数々の選手を育てた監督歴50年の名伯楽である。

見た目通りの優しい語り口。だがやはり只者ではなかった。開口一番「私、ボクシング好きじゃないんです。だって殴り合いでしょ」とニコニコ。ムムそうきたか。戸惑っているとさらにジャブ。指導で心がけているのは「余計なことはいわないこと」。「？」。「瞬にして劣勢に立つ私。さすがだ。負けました。それを見てとるや丁寧の説明をしてくださった。強い選手は、相手を見て次はどう展開するのか常に考えて



カリスマの人気を集めた元・世界王者鬼塚勝也（本名・隆）選手の母校でもある。「彼は本当にすごかった。特に整理整頓がすごい。服のたたみ方一つとっても何一つ手を抜かない。教えられました」と先生。





部員は18人。50人もいる関東や関西のチームの選手と比べれば、細くて、小さくて、スピードも遅い。だからこそできることは何でもする。青竹踏みやダンス、視力向上トレーニングも取り入れた準備運動は工夫の賜物。



いる。横からあしろうと言っても邪魔なだけ。「ほら例えばあの子」とリングを指差す。目をやると、相手をクツと見据え、次々と動きを変えリズムを変え、なるほど自分が描いた物語に相手を組み入れようとしているのだな。でも「相手の子もよう考えてます。負けてません」。確かに攻め込まれている側も、やられっぱなしになるまい、わずかな隙を捉えて自分の物語を描こうと粘っている。

そうか。これはコミュニケーションだ。殴り合い、とおっしゃったのはそんなもんじゃないという意味だったんじゃないか。どんな相手がかかるかわからない世界で、相手をよく見て動いて、なんとか自分の物語を描き切ろうとする。みんな目がキラキラなのは「よく見よう」としてのからなんだきつと。あと面白かったのは、大事な「バランス」ということ。攻めることばかり求めると守りがおろそかになる。勝てると思った瞬間に隙が出る。なるほどこれは人生修養です。

ということ、初日の観戦は終了のゴングなり。ノートはヨレヨレ、体は汗だく。まずは風呂だ。市役所のマサさんオススメの『大黒湯』へ。シャンプーもリンスも無料で貸してくれる。貸しタオル20円。小倉の銭湯はエコで親切である。

風呂を出て喉がカラカラになったので、且過市場入り口のフルーツ店でミックスジュースを頼む。色白でプチプチ泡が立っていて爽やかな味が体にスウとしみて、思わずおぼっちゃんに「めっちゃ美味しい」と言うと「わあ嬉しい」と可愛らしく喜んでいただいたのでさらに嬉しくなる。



ソフトボール
若園アローズ
スポーツ少年団

ピッチャーの投げる球のあまりの速さに驚く。細く小さな体全体を鞭のようにならせる様子は圧巻。そして、それを撃ち抜くバッターにも驚く。チームができた40年前、試合のたびにコールド負けだったというのがウソのよう。



昔は子供がたくさんいて、町ごとに子供会がソフトのチームを作り夏祭りで試合をしていた。その中で、もうちょっと本気で練習したい子たちが集まってアローズ誕生。現在の監督はその第1期生だ。

居酒屋「武蔵」へ。給仕の女性陣がテキパキと「できる女」揃いなのがカッコいい。社長もやってくる。この納豆が美味いんだよという牧野さんに大きく頷いて、そうなんですうちの納豆は大粒でね、黄身をよく混ぜるともうねっとりしてなんと……納豆でここまで自慢する社長も珍しい。

● 3日目

台風一過の晴天。一路、折尾愛真高校女子硬式野球部の練習場へ。山を越え川を越え市境を越え大豆畑を越えたらグラウンドが現れて、そこで真っ黒に日焼けした選手たちが整然と準備運動をしているのを見て、思わず「わあ」と声が出た。女子野球。実は初めて見た。ビシビシくる。うまいのだ。すごいぞ女子。知らぬ間に時代は動いていた。

小柄でスピードも遅い分、動きに無駄をなくしていけばスピードがつく。特に創部5年の今年、「史上最弱」と言われたメンバーが「やるしかない」と一つになったことが大きかったと善明崇監督。なるほど彼女たちの動きには一つの無駄もない。無駄なことをやっている暇なんてないのだ。

挨拶もすごい。我ら大勢の取材チームが来ても、彼女たちは「一人一人」に挨拶する。全員まとめて、じゃなくて。やれることは全部やる。遠征先で道路で練習していても、通行人や車の運転手さんにも挨拶しているそう。

人はここまで本気になれる。そのエネルギーはどこから来るのだろう。別に将来、お金がもうかるとかでもないのだから。

ふとアーチェリーの重定さんのことを思い出した。「のはぼんやり見えていたらいい」と言っていたっけ。見えすぎると余計なことを考えて力んでしまうのだと。そうか。今をただ全力で生きる。そうして人は強くなれるのだ。

続いては市立若園小学校へ。校庭に、オレンジ色のユニホームを着た子供たちが一人、また一人、と弾むように集まってきた。スポーツ少年団「若園アローズ」の選手たちだ。

全国大会にもしょっちゅう出る強豪と聞いていたが、みんなちっちゃい！ 細っこい！ と思つたら太つちよな子も！ バラバラ！ 自主的にキャッチボールが始まるも、投げるのも捕るのもおぼつかない子もいる。一番小さな子に至っては、大人がそうつと下から投げたボールをやつとキャッチ。大丈夫か。そのうち、コーチを務める瀧石玉城代表が到着。いろんな子がいますネと感想を述べると、イヤ心配ないんです、入ったばかりの子はうまくできません。でも続けていれば誰でも必ずうまくなるという。そうか。そうなのか。

ノックが始まった。あ、さっきの一番小さな子も皆に交じってセンターの位置に入っているではないか。1年生のケイタ君というらしい。「ケイター、いくぞー」と代表が球を飛ばす、ハラハラして見ていると、ケイタ君は全力でゴロをキャッチ。でもどこに投げていいのかわからない。セカンドの子が大きな仕事でここに投げろとアピールしている。誰もケイタ君をお荷物扱いしていない。「みんな、自分もそうやって育ってきたからですかね」と代表。幸せな光景である。

テコンドー
日本国際テコンドー協会
テコンドー小倉道場



見学のお母さんたちにも話を聞いた。「子供ってすごいです。昨日捕れなかった球も、今日は捕れる。見てみると本当に楽しいし、刺激も受けます」。普通の子が、大人に見守られて強くなる。そんな人たちが住む街。絶対いい街である。本日ラストはテコンドー。北九州には日本チャンピオンを何人も送り出している名門道場があるのだ。

薄暗くなつた校庭を歩いていくと、明かりのついた建物から、パソコン、パソコン、と音が聞こえてきた。白い胴衣を着た子供たちが回転したりジャンプしたりしながら的に向かつて次々と蹴りを繰り返している。速すぎて何をどうやっているのか見えやしねえ。今日はいろんなものを見てきたが、誠に人の体とは計り知れない可能性を持っているのである。

見ていたら羨ましくなってきた。ちょっと教えてもらおうことにする。だが基本の蹴りで既によろよろ。それでも「初めてにしてはすごい」と褒められる。皆さま優しいのである。技の種類は3200あり、自分に合った技を身につけることで強くなる。みな目が輝いているのは、自分は自分でいいんだっていう自信があるからなのかなと思う。

自分は自分でいいといえば一人、気になりすぎる人物がいた。子供たちの練習相手となっている謎の男。太った体。坊主刈り。そしてサングラス。人のことは言えないが、怪しすぎる。話をすると「僕は所詮お笑い要員っすから」なんて言う。しかし彼とてなまじの弟子じゃないのだ。演武では、子供たちが華麗な技を披露する中央で仁王立ち。ラストでズシ

日本ではまだ馴染みの薄いテコンドーだが、実はルーツは日本の空手。帯の色は5色あり昇段の理由も明確。この合理性、オープン性が世界に広まった理由かもしれない。小倉道場を作った森松裕也さんもその明さに惹かれた一人。柔道から転向して師範の資格を取った。



みんな、自分の体を自在にコントロールできる喜びにあふれている。何より体の柔らかさにびっくり。怪我をしない体づくりが重視され、ヨガや体操の要素も取り入れたストレッチを積み重ねているからこそ。特に「かかと落とし」で足を頭のはるか上まで蹴り上げる姿は圧巻だ。

ズシ前へ歩み出て頭で10枚の瓦を割る。「何も考えなければ誰でもできますヨ」。いやいや普通考えるでしょう！痛いし怖いし失敗できないし。「そんなこと考えたら変な力が入って怪我します」。イヤだからこそいろいろ考えちゃおう。何も考えないってことこそ難しいと言おうと「そんなこと言われたことないっす、嬉しいっす」と照れている。

そうだよ人にはそれぞれ役割がある。ソフトボールのケイタ君を思い出した。いろんな人がいることがチームの力になっているのだ。勇気をもらう。

小倉に戻ると22時だが、みんなお腹がペコペコで焼き鳥屋へ。山芋と納豆を混ぜて鉄板で焼いた小倉のソウルフードを頼む。美味しい美味しいと食べていると、ピンクのポロシャツの襟をビシッと立てた小倉の宇崎竜童が「そう？ いやー嬉しいなあ」と顔をくしゃくしゃにして喜んでる。

ずっと思ってたんだけど、小倉の人は褒められ上手だな。褒められてありがたうと言うことって案外難しい。素直で優しい人たちじゃないと、こういうことはできない。

● 4日目

ウエイトリフティングのオリンピック強化選手、柳田瑞季やなぎた みずきさんに会いに九州国際大学へ。小柄でスマイルの絶えない女性が、バーを握るとたちまち視線が1点に定まり、炎のように集中する姿は舞台芸術のようである。

彼女の競技人生を聞いてみると、この競技は怪我との闘い

太い鉄の棒が大きくしなるほどの重りをフッと空中に浮かせ、そのわずかな間にバーの真下に素早く入り込むスピードと正確性に圧倒される。「重量挙げ=力比べ」という単純な先入観があっさり転覆。ベスト記録はジャーク79キロ、スナッチ99キロ。



ウエイトリフティング
柳田瑞季

バーから離れると、とにかく弾むようなスマイルを絶やさず。学生時代のコーチに、楽しくやらないと、天真爛漫にやれと言われた。普段の生活では重いものを持つのは案外苦手。「母の方が平気で重い荷物を持っています」



とわかる。怪我をすれば長く停滞する。が、そのギリギリのところを攻めなければ強くない。なるほど「バランス」だ。ボクシングの先生の言葉が蘇ってくる。強くなるには上ばかり見ているはダメなのだ。時に自分を抑える。ダメな自分とともに、諦めず、まっすぐ進んでいく。

にしても、同じ人が、同じ重さのものを、ある時はふわりと楽々と挙げられるのに、別の時にはバーを触っただけで違和感を感じるほど重いというのが面白い。それを「調子」と言うんでしょうが、調子って何だろうね。内臓も含めた体のあらゆる具合の調和なのでありましようが、それを司るのは心だ。心は自分だけじゃ作れない。周りの人の一言、一つの笑顔、一つの思いやりが、心を重くしたり軽くしたり。

そういう意味では、街全体が「調子」に関わってくるんじゃないだろうか。人のちよっとした行動が、波動のように、誰かを励ましたり傷つけたりして、それが結局のところ、金メダルとかにつながっていく。でも金メダルを取れなくなってきたのだ。それぞれの人生に、それぞれの金メダルがある。

取材を終えると、牧野さんが「せっかくだから北九州らしい場所を見ていってください」と、洞海湾どうかいわんに連れて行ってくださる。道すがら、かつて街が製鉄や炭鉱で栄えたこと、それが一つ一つなくなっていく、挙句、北九州というところが悪いか怖いか悪い評判が広がってしまったこと、でも暮らしている人はみんないいんですよ、それを知ってほしくて僕はこの広報誌を作っているんです、と話してくれた。

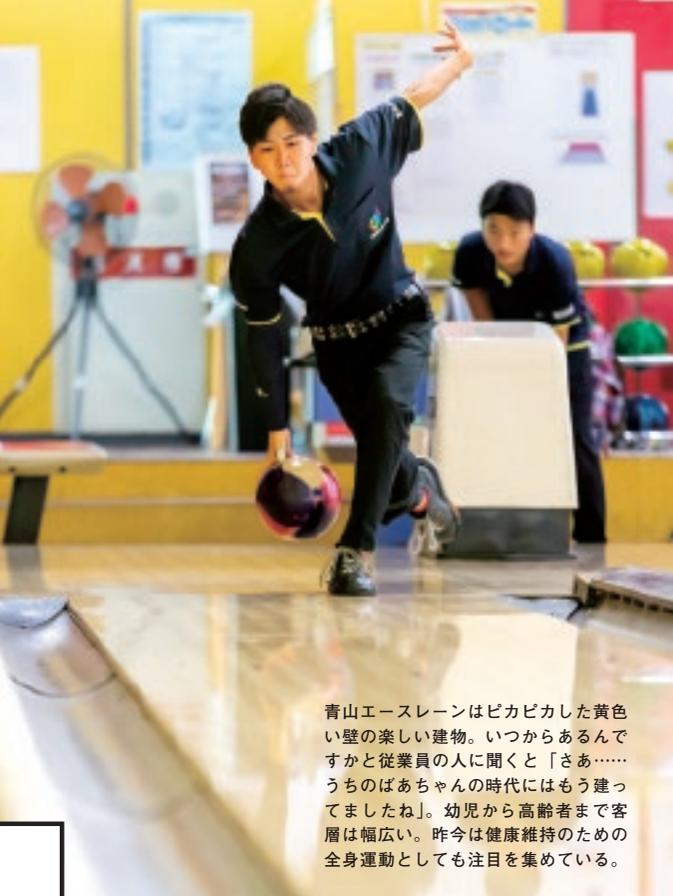
明るい話もある。かつて製鉄業が絶好調だった時代、洞海湾は工場の排水でえらいことになっていたが、それに怒った普通の主婦たちの住民運動や報道が、研究機関を動かして会社を動かす、ついに美しい海を取り戻した。この実績が今、公害に悩む国々の関心を集めて多くの人が視察に訪れる。

なるほどピンチはチャンス。肝心なことは、ピンチから目を背けないことなんだろうな。そうすればいつか道は開けていく。

●最終日

最後の訪問先は、古くから親しまれているボウリング場。スポーツとしてボウリングに取り組んでいる2人の高校生、岡本龍二おかもとりのうしさんと北谷蓮斗きたたにれんとくんが隅っこで黙々と練習していた。小学生の時にこのスクールで始めたためきまきまうまくなり賞品でジュースなどをもらっているうちに、県内トップクラスの選手に成長した。見ていると、2人はフォームも球筋も全然違う。自分の投げやすいフォームを安定させ、いかに「マインライン」に球を乗せるかが勝負なんだって。ということは人の数だけラインがあるってこと。自分のラインを自分で見つける。見つけたらそれで勝負。なんか人生みたいだ。

離れたレーンで、おじいさん2人がゲームをしていた、腕にプロテクターをつけた本格派。同級生（78歳）で、何十年も通っているそうだ。2人とも真剣。真剣だけど笑顔。そうだよ。人生も同じです。真剣だから楽しい。そして、続けること。その先にきつと何かが待っている。



青山エースレーンにはピカピカした黄色い壁の楽しい建物。いつからあるんですかと従業員の人に聞くと「さあ……うちのばあちゃんの時代にはもう建ててましたね」。幼児から高齢者まで客層は幅広い。昨今は健康維持のための全身運動としても注目を集めている。



青山エースレーン
ボウリング
岡本龍二・北谷蓮斗





滞在型フラワーショップ

ゆくはし植物園



植物の魅力をたくさんの人に伝えたい。

滞在型フラワーショップ〈ゆくはし植物園〉は
常に花からお客様が彩りのあるライフスタイルがおくれるように、

あらゆる面でご提案させていただきます。

たくさんの植物と出会うために、数多くの植物達を集め、

植物を愉しむための充実した花器等もご用意。

お客様と植物とのイメージを沸き立てる

インテリアとの展示もあり、

植物に囲まれた中で癒されるカフェも併設。

〈ゆくはし植物園〉で花や植物とのくつろぎの時間を

ゆっくりとお楽しみください。



住所 〒824-0064 福岡県行橋市上津熊221 年中無休/営業時間 10:00 -18:00 TEL.0930-24-1848

公式HP <https://yukuhashisyokubutsuen.jp/>



Facebook



Instagram



@yukuhashishokubutsuen

ゆくはし植物園

検索

SNS
公式HPで
最新情報を
発信中!

都心にそびえる
美しい名城
小倉城の記憶
今ここに甦る

1F
大迫力の
小倉城
シアター

3F
宮本武蔵と
佐々木小次郎
を紹介

1F
小倉城下の
にぎわいを
体感!

小倉城

住所 福岡県北九州市小倉北区城内2-1 TEL 093-561-1210
料金 大人350円 中高生200円 小学生100円
開館時間 9:00~18:00(4月~10月) 9:00~17:00(11月~3月)
※入館は閉館時間の30分前まで

詳しくはホームページで!
<https://www.kokura-castle.jp>

小倉城

ボルクバレット北九州

プロフットサルF2リーグ公式戦



北九州市をホームタウンとするプロフットサルチーム「ボルクバレット北九州」の今シーズン最終戦が北九州市で開催。なんと対戦相手は首位を争うチーム。プロの華麗で激しい戦いを観戦しませんか？

- 日時 2020年1月12日(日) 14時キックオフ
- 会場 北九州市立浅生スポーツセンター体育館 (北九州市戸畑区浅生2-1-1)



Tリーグ

卓球ノジマTリーグ公式戦

北九州市出身で、世界を舞台に活躍する女子卓球の早田ひな選手が所属する「日本生命レッドエルフ」の公式戦が北九州市で開催。

オリンピックに向けてますます盛り上がる卓球界。世界トップレベルの試合に乞うご期待！

- 日時 2020年2月8日(土)、9日(日)ともに時間未定
- 会場 北九州市立浅生スポーツセンター体育館 (北九州市戸畑区浅生2-1-1)



ほどよく都会で、ほどよく田舎。子育てもくらしも楽しく快適。

北九州市、住みやすさ向上中!

8年連続 1位!
次世代育成環境ランキング

「NPO法人エガリテ大手前」が実施する第14回「次世代育成環境ランキング」において、北九州市は出産環境(病院・診療所が多い)、小児医療(平日夜間・土日祝日診療)の充実などが評価され、平成30年度も政令指定都市第1位を獲得しました。

2年連続 1位!
合計特殊出生率1.60人
政令指定都市

▶充実した医療・介護の環境
北九州市は病院も充実し、介護施設にも恵まれている。
▶待機児童ゼロ、市内に11の大学
年度当初の待機児童は9年連続ゼロ。市内に11の大学があり、学ぶ環境が整っている。介護施設にも恵まれている。

2年連続 1位!
シニア世代が住みたい田舎ベストランキング

宝島社「田舎暮らしの本」2019年2月号、「2019年版 住みたい田舎ベストランキング」のシニア世代部門において、コンパクトでありながら医療介護なども充実して暮らしやすいまちづくりを進めていること、積極的に移住支援を行っていることなどが評価され、2年連続1位を獲得しました。

北九州市への定住・移住を考えている方を 全力で応援!

北九州市すまいるクラブ 会員募集中! 入会無料

- 会員特典① 引越割引
- 会員特典② 不動産仲介手数料割引
- 会員特典③ 暮らし情報お届け

お問合せ先 北九州市企画調整局地方創生推進室
TEL 093-582-2174 公式ホームページはこちら
〒803-8501 北九州市小倉北区内1-1 北九州ライフ 検索

転職・就職のご相談はこちら

北九州市U・ターン 応援プロジェクト 利用無料

HPから登録すると、こんなサービスが無料で受けられます!

- 専任コンサルタントへ就職・転職相談OK!
- HPで登録市内企業の求人情報検索、閲覧OK!
- 登録市内企業へ面接エントリーOK!
- 登録市内企業からスカウトメールがくるとも!
- U・ターンや市内の情報をお届け!



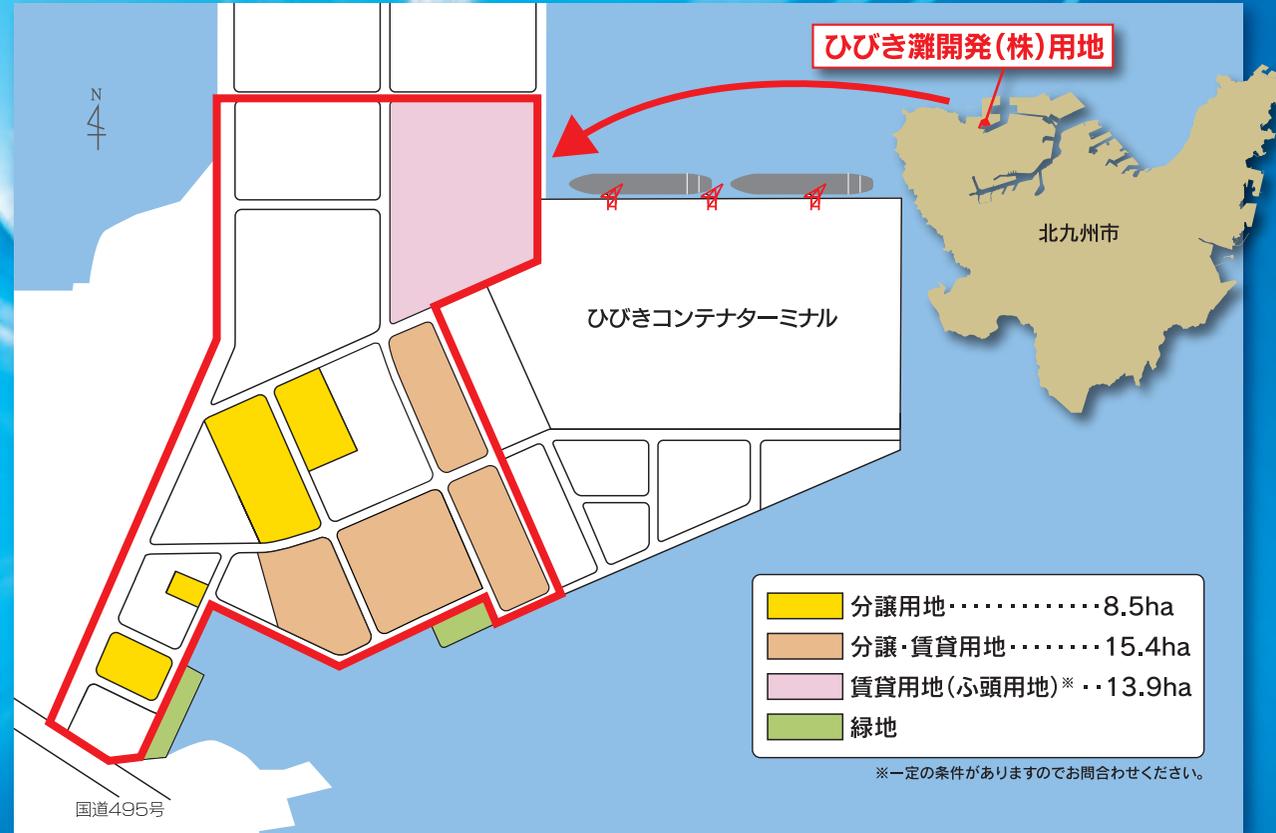
お問合せ 北九州市U・ターン応援オフィス
0120-0823-46
http://www.shigotomaruugoto.info/ui-turn

西日本の物流拠点 北九州“ひびき灘”

港湾物流施設用地

好評分譲中!!

賃貸も可



メリット1 大型港湾施設の背後地

メリット2 多機能で便利な交通インフラ

メリット3 21,000円/㎡からの安価な用地

メリット4 賃貸用地としても利用可

ひびき灘開発株式会社 開発企画課

〒808-0024 福岡県北九州市若松区浜町1丁目18-1 TEL.093-771-6132

ホームページ簡単アクセス

女子レスリング50キロ級、53キロ級、62キロ級と、それぞれの階級で世界制覇を目指す3人姉妹、入江ゆきさん、ななみさん、くみさん。普段、スポーツ紙やニュースで度々目にするのは、「アスリート」としての勇姿だが、今、ここに立っているのは、この公園で幼い頃から練習を積み重ねてきた、ゆきちゃん、ななみちゃん、くみちゃんなのだった。なぜそんなことを思ったかといったら、数日前、彼女たちを長年指導してきた恩師・辻柴樹さんに会ったから。これは、三姉妹の母校である小倉商業高校のレスリング部で指導を続ける辻柴先生が語る、入江三姉妹との北九州市での物語。

「1999年に、ちびっ子レスリングの活動を立ちあげました。まだ20代でしたね」
レスリングのクラブチームが市内になかったので試しに作ってみるか。辻柴先生が、当時の競技仲間と半ば若さの思いつきで始めたクラブは今年20年目を迎えた。最初は、児童館の遊戯室を貸してもらい、床にマットを敷いて簡易練習場とした。やがて近所の子どもたちが集まってくる。自分で興味を持つ子もいれば、体を丈夫にしてあげた

コラム

辻先生と入江三姉妹

「まっすぐに進んできた20年」

写真：高橋マナミ
文：つるやももこ
絵：牧野伊三夫



どっしりとした体型とは裏腹に、温和な表情の辻先生。左ページ・右からくみさん、ゆきさん、ななみさん。「辻先生は熱い人。お父さんよりも一緒にいた時間が長いかも」



いと、親が我が子の手を引いてくることもあった。その中に入江三姉妹もいた。

長女ゆきさんは当時7歳、ようやく小学校に上がる頃。次女のななみさんは保育園に通っていた。三女のくみさんに至っては「最初は床にころんと寝っ転がっていただけ」と、辻先生は振り返る。

レスリングを始める動機は何であれ、辻先生たちが伝えたかったのは、「レスリングの楽しさ、おもしろさ」。青春をかけて続けてきた競技を、子どもたちに体験してほしい。いざ始めてみたら、ちびっこたち

の健気ながんばりがかわいくて、指導者としてどんなのめり込んでいった。

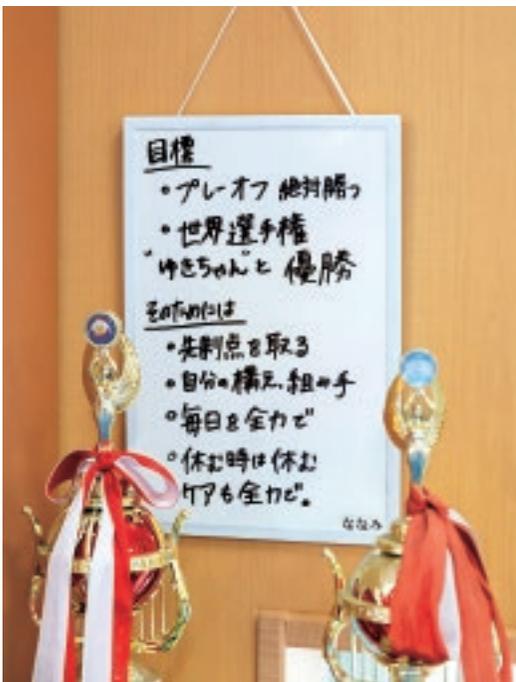
やがて、練習の甲斐あって、だんだんと子どもたちは強くなっていく。笑ったり、泣いたり、喜んだり、くやしがりたり。レスリングを通して生まれる情緒を目の当たりにして、どうせだったら、メダルを取らせてあげたい。辻先生の心も次第に変化していった。こうして、週1だった練習はやがて週2回に。最終的に週4回へと増えていくことになる。

ゆきさんが小学校5年生頃のこと。辻先

生は、子どもたちを前にある賭けに出た。

「よし、オリンピックに行くぞ！」
先生いわく一世一代の「大ボラ」。めきめきと強くなっていく子らに、これからもレスリングを続けていってほしい。多感な年頃、反抗期に入りかけた彼女らを振り向かせたい。その一心で発した監督としての口説き文句だった。

「親御さんとも相談して、意を決して言ったら。そうしたら、ゆきたちが目をキラキラさせて「やるっ！」と。あー、乗ってくれたと、うれしかったですね」



写真上・幼少時代から自宅近くの公園で練習を積んできた。かつてのメダルを持ち寄って。下・小倉商業高校レスリング部では、各自がホワイトボードに目標を書き、実践する。

子どもと一緒に自分も成長していかなければ。自分が選手だった頃の経験値だけでものを言ってもこれからは通用しない。そう思った辻先生は、ビデオや資料で、客観的にレスリングを見直し、研究した。強い選手とは？ あらゆる仮説を立てて、それを実践しては振り返る日々。

「研究が如実に結果に表れておもしろかった。選手に育てられる」と指導者の方がよく言いますが、身をもってそれを感じることはできませんでした」

そして思った。子どものレベルが上がれば上がるほど自分が試される。

ゆきさんが中学2年生、全国中学生選手権に出場したとき、こんなことがあった。

たばこを吸う辻先生に向かって突然彼女が言った。「監督たばこやめてください。」
「なんで？」と聞き返す辻先生。するとゆきさんはこう答えたという。

「長生きしてほしいから」

一瞬たじろいで、すぐさま辻先生は答える。「おまえが優勝したらやめるよ」

しかし、ゆきさんは惜しくも優勝を逃してしまふ。その直後、先生は決心する。

「ぼくが先にやめよう」



吸っていたたばこを根元まで吸いきった

先生は、残りをたまたま居合わせた人へあげ、禁煙を始めた。そして数週間後、今度は先生がゆきさんに突然聞く。

「最近なんか気づかんか？」

たばこの臭いがしないと答えたゆきさん

に向かって言った。

「来年はおまえ、勝たんといけんよ」
翌年、ゆきさんは、辻先生との約束通りに全国制覇を果たすのである。

こうして、クラブでの指導を続けながら、やがて小倉商業高校レスリング部の監督となった辻先生は、ゆきさんはじめ三姉妹を高校まで指導し、次のステップへ送り出した。実質の監督は卒業しても、いまだ師弟関係は続いている。それぞれ今の所属の許可を得て、時間が許す限り、姉妹は辻先生がいる母校で後輩たちと練習をする。

「ゆきたちとはウマが合ったんだと思います。監督としてそういう選手と出会えるのは人生で1度きりだろうなと。あの子らががんばりは誰よりも知っているし、(競技者としての)強さはもちろん、人としても優しくまっすぐで、素晴らしいものを持つていると思う。ぼくは、ゆき、ななみ、くみを尊敬しています」

オリンピックに行くぞ！と決めたあの日から、互いにまっすぐ切磋琢磨してきた時間、そして築いてきた関係がここにある。いつかの決意、その日は必ずくると、辻先生は、静かに信じている。



どんなスポーツも同じだが、本番の晴れ舞台、そのわずかな時間に向けて膨大な練習を積む。まるで人間飛行機ともいえる水平技の名前は、ストラドルジャンプ to プッシュアップ。



エアロビック スポーツスタジオ S.D.E.C.I.T.Y 河野莉娃

「はい」。落ち着いた声で返事をしながら、コーチを見つめる大きな瞳は挑戦的。小柄でしなやかな立ち姿はまるで野生動物のように均整がとれている。河野莉娃さん13歳。競技エアロビック・ジュニアユースのエースだ。

エアロビックという言葉聞きなれない人も、80年代に一世を風靡したエクササイズ、エアロビクスダンスと聞けばピンとくるかもしれない。アメリカのケネス・H・クーパー博士が開発した運動処方理論（エアロビクス）が、枝葉を広げながら競技へと進化していったのがこのエアロビック。音楽、ことにメロディというよりもリズムに忠実に合わせ躍動しながら、合間に難易度のある技を決めていく。瞬発力、ジャンプ力、柔軟さやしなやかさはもちろん、表情、表現力、余すことなく求められる採点競技。フィギュアスケートやアーティスティックスイミング、新体操などにも近いイメージだが、より舞踊の要素が強いのがエアロビックの特徴だ。

このエアロビック。実際に目にするのは初めてで、そして想像していたよりもアクロバティックな動きに度肝を抜かれた。だって、踏み台もないのにすごく高く跳ぶんです！脚が裂けるんじゃないかというくらい180度を超えて開脚するんです！その合間にダンスをするんです！演技時間

はたった1分20秒足らず。でも、その凝縮された時間の中にさまざまな要素が取り入れてあって、とても緻密な競技なのだ。曲調も想像してたものとは違って、アップテンポなハードロック系でびっくり。しかしこの選択も、選手の個性によって千差万別で、クラシックもヘビメタルも、ビヨンセもマイケル・ジャクソンもあり。映画のサントラでいえば、数年前は「アナ雪」ブームがあったらしい。

「エアロビ」と聞けば、世代的にどうしてもレオタードでピョンピョン、ポップなBGMに合わせてポニーテールのお姉さんが踊っているところを想像してしまっていたのだけだ……まったく違う。恐れ入りました。

「ありがとうございます。そうなんです。なかなかまだ競技人口も多くはないので、本当のエアロビックの魅力について、みなさんにもっと知ってほしいなと思います」

そう話すのは、莉娃さんが所属する「スポーツスタジオ S.D.E.C.I.T.Y」の代表でテクニカルコーチを務める原薫先生だ。OL時代、会社の同僚にエアロビクスダンスのレッスンを誘われ、習い事のつもりでふらりと参加して、そのままはまってしまった。汗をかいて健康的にダイエット。それだけのつもりだったのに、気づけば会社を辞め、インストラクターを目指し養成所へ入り、スポーツクラブでクラスを持つまでに。過去には選手として競技会に参加した経験も持つ。指導者になってからは、実の娘さんを世界大会（ユース）へ導き、なんと金メダルを獲得！その娘さん



小倉南フットボールクラブ

サッカー



グラウンドが眩しい。黄色とブルーのユニフォームを着た少年たちはもつと眩しい。真夏の日差しもなんのその。身軽に駆け回り、ボールを一心不乱に追いかける。彼らのその圧倒的な集中力に引き込まれ、保護者のごとくじっと目で追う。「みんな元気ですねえ」。隣に立っている「小倉南FC」のヘッドコーチ・古川雅史ふるかわまさしさんに話しかける。すると、「かなりの運動量ですよ。本気でやってる子は太れんもんね。食べるのが追いつかないですよ」と、これまた少年たちに負けず劣らず、よく日に焼けた笑顔が返ってきた。

そんな古川コーチもクラブの卒団生。1983（昭和58）年に立ち上がったクラブの2期生として、小学1年生から6年間在籍していた。高校まで本気でサッカーの道を志したが、地元の大学へ進学後は競技から離れていた。だがあるとき、大学の通学路で当時のコーチと偶然に再会し、クラブの



「精神力（闘志・忍耐）と協調性を養い、心身が健全な人間形成の場を」をモットーに始まったクラブ。時代は変わっても少年たちが一心不乱にボールを追いかける光景は変わらない。

アシスタントとしてバイトに引っ張られ、専任となり早22年、今に至る。そうやって古巣に舞い戻ったスタッフがほとんど。ちなみに今、クラブ所属の子どもは、小学1年生から中学3年生まで合わせてなんと758人！とにかく、ここにいるみんな、もれなくサッカーが大好きなのである。

クラブの母体は私立の幼稚園を営む学校法人。幼稚園児の運動にサッカーを取り入れていたのが創部のきっかけだが、なぜサッカーだったかといえば、空間を飛ぶボールよりも、地面をゴロゴロと転がるボールの方が、幼児も認識しやすいという理由から。そうはいっても、初代ヘッドコーチはとっても熱い人だったらしく、「どうせやるなら全国へ」と旗を掲げ、小学1年生の入部と共にとにかく練習はスパルタ。古川さんも当時を振り返り、その厳しさに思い出し「苦」笑い。それでも辞めなかったのは……、もう一度言うまでもない。

時代は移り、指導者も指導の方法も変わったけれど、クラブの信念は変わっていない。スポーツを通して人を創る。いかなるときも、自分自身で適切な判断ができること。そしてそれをいかに行動に移せるか。サッカーのプレーを通してそれを自主的に学んでほしい。実際の練習の場でも、ここぞというタイミングとゆずれないと思う瞬間以外、コーチから怒号が飛ぶことはほとんどない。子どもたちは、自分で考えて動いた結果を、プレーのあとさきで体得していく。創部36年。北九州の「型のない」指導の場から、プロで活躍する選手が続々と生まれ、そして巣立っている。

車椅子バスケットボール 北九州足立クラブ

ホイッスルと同時に、1列に並んだ車椅子が疾走を始める。速い！ 乗り手は上半身を前後に動かしながら目いっぱい反動をつけて、両手で車輪を回す。ぐんぐんスピードが上がって、人と車椅子が一体になっていく。かっこいい！

この日は、車椅子バスケットボールチーム「北九州足立クラブ」の練習を見にやって来た。ウォーミングアップの走り込みですでに感動。どうやってそんなに速く走れるの？

「乗ってみますか？」

女性が近づいてきて話しかけてくれる。編集委員、うながされるままに腰掛ける。「ん？ 意外に座面が狭いぞ。お尻がきつい」。借り物だと座幅が狭いかもしれないと教えてもらいつつ、足の付け根部分に安全ベルトを渡す。なるほど、こうやって下肢をしっかり固定することで上半身が動きやすくなる。恐る恐る運転開始。

大きな車輪がいわばハンドルとブレーキ。右の車輪を左より強く回せば左に旋回、右の車輪の回転を緩めれば右へ。逆もしかり。ふむふむ。頭で理解してもいざスピードを速めていくと、恐怖心も出てくる。これでボールを持ちドリブルしながら進むのだから、やることがありすぎて頭が混乱しそう。振り返れば、AD有山は、すでに若葉マークがいらないくらいに乗りこなしているではないか！

わたしに乗り方を教えてくれた藤本咲月さんは、このクラ

ブでバスケットを始め、5年が経つ。彼女は健常者。普段は理学療法士の仕事をしている。リハビリにやって来た人から、このクラブの存在を教えてもらったのがきっかけ。やはり、車椅子で走り抜ける疾走感にすっかりはまってしまったひとりだ。「もともと膝が悪くて、あまり激しいスポーツはできないんです。でも、この車椅子バスケットなら、足への負担も減らせるからちょうどいい」と藤本さん。車椅子バスケットボールは、障害者、健常者共に人気があるのが特徴なのだ。

公式の試合ルールも、障害者と健常者が混合でプレーする前提で作られている。障害の有無、レベルによって、ローポイント（障害が重い）からハイポイント（障害がない、もしくは軽い）まで1〜45の5段階で持ち点が決められていて、試合中のコート上メンバー5人の持ち点合計が14を超えてはいけないという決まりだ。何も知らない者には、このレベル分けはシビアに感じるかもしれないが、つまりはこのポイント制によってチームを組むことで、障害の重度に関係なく公平に試合に出場できる仕組みになっている。

「車椅子バスケットはよくできた競技だと思います」

そう話すのは、クラブで最年長の本山真人さんだ。入院をしているときにリハビリの一環としてこのスポーツに出会い、クラブに所属して45年になる。かつては個人競技のテニスにも夢中になったが、現在はバスケットボール一本。「車椅子バスケットの楽しさは、相手のディフェンスをジグザグにすり抜

車輪をこぎ、ドリブルし、ボールを投げる。すべての動作を上半身だけで行うには、しっかりした体幹としなやかな筋力が必要。車椅子の方輪が浮くほどの力が集約する。



常に言葉を掛け合い、笑い声が絶えないいつもの練習。選手の足となる競技専用の車椅子は、とても高価なため、お下がりを受け継ぎながら、みな大切に乘っている。



けたり、逆にこちらが守りに入って、うまく車椅子を操作してオフセンスに回り込んだりすること」。本山さんも話す通り、練習試合を見せてもらっていても、なかなかハードである。競技用の車椅子は、キャンバー（車輪角度）が地面に向かって外側に向いていたり、後部補助輪が付いていたり、バンパーが付いていたり、安全性に長けた独特の形をしている。それでも、試合となれば激しくぶつかれることもままあるわけで、プレーの妨げにならない場所での転倒は、自力で起きない限り、シュートが決まるか、ボールがコートアウトするまでそのまま待機となる。うーん、これは障害に関わらず基礎筋力がかなり必要……。

2009年に事故に遭い、退院してからの筋力維持のために何か始めたいと思いきやクラブに入部したという富田義隆とみたよしたかさんは、始めて6年目とは思えないほどの腕前だ。「入院中にネットで調べて体験に来て、すぐやりたい！と思ったんです」。富田さんいわく、シュートは全身のバネが必要。特に背中の筋肉と体幹がこのスポーツの要とのこと。

さて。ボールを渡された若葉マークつるや、スローなドリブルからのシュート！ふにやりと上がったボールはゴールのネットさえかすることなく飛んでいく……。体幹、背筋の大切さと共に、普段、下肢にどれだけ頼って生きているかを実感する。併せて、競技センスについても一考させられる、車椅子バスケットボールデビューの夜であった。



ラグビーウェールズ代表の大会最後となった試合翌日の新聞に出されたウェールズラグビー協会から北九州市民に向けた感謝のメッセージ
 <2019年11月2日(土)毎日新聞・朝刊に全面広告で掲載>

***アンケート**

『雲のうえ』31号をお読みいただきありがとうございました。感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望を、綴じ込みはがきでお寄せください。抽選で13名の方に以下のプレゼントをお贈りいたします。2020年4月15日消印有効。当選の発表は発送をもって代えさせていただきます。
 *応募はおひとりさま1号につき1通に限らせていただきます。複数応募は無効となりますのでご注意ください。

A: 北九州—東京羽田間往復航空券目録
 (株式会社スターフライヤー)
 ⇒1名様

B: ホテルペア宿泊券(アクティブリゾート福岡八幡・JR九州ステーションホテル小倉・千草ホテル・ホテルクラウンパレス北九州・ホテルクラウンパレス小倉・プレミアホテル門司港・リーガロイヤルホテル小倉)
 ⇒各1名様
 *ご希望のホテル名をお書きください。

C: 北九州市ふるさとかるた(北九州市にぎわいづくり懇話会)
 ⇒5名様



青雲/白雲
 *特集「北九州やきとり豚バラ日記」を読み、一つ実現できなかったことを思い出しました。父のおなかに入り、のやきとり屋さんで食事をしなかったことです。OL時代、いつも行けると思いつつ、結婚で上京し、日々の生活を忘れてしまった。今回帰省した際、この30号を手にし、あの時のことを思い出し、店の前まで行くことが出来ました。これから時々小倉へ帰ることも増えますので、家族で食事に行っても思い出話を子供達に話してあげたいと思いました。
 (神奈川県川崎市・54歳女性)
 *30号おめでとうござい。毎号充実した内容で手にすることができた時はとてもうれしかったです。熊本の長崎書店さんに在庫がなく、北九州へ出かけたこともあり。30号に出てきた若松のキャベツのように、農業もおすすめポイントがあるようです。(熊本市・51歳女性)
 *やきとりは時々とりでぶらっと食べに行きたくなります。みんなやきとり特集を待っていたと思います。行けなくても行ってみたい、行きたくなる気持ちになる記事でした。
 (山口県下関市・75歳男性)
 *オシャレなやきとり屋さんもいいけれど、今回載っていた昔ながらのやきとり屋さんもいいですね!しかも小ぶりなので、いろんな種類が食べられていいなあと思います。
 (福岡県嘉穂郡・35歳女性)
 *3号から愛読しています。いつかは北九州に旅行に行きたいと思いが、つい先日ようやく行くことができました。お天気にも恵まれ、50年前に見た赤い若戸大橋をきれいな青空の下でまた見ることができました。誌面に出てきた地名の位置関係も改めて分かりました。今までは文字しかなかった地名が空気や光、人の息づかいを伴っていきと見えてくるようになりました。
 (香川県高松市・59歳男性)
 *誌面からやきとりの匂いが漂ってきました。どこの店の大将もやきとりとガチンコ勝負しているようでした。「この店でこれを食べるばかりです。食べても妄想は広がるばかりです。子供の頃、父がやきとり屋さんになんか度も連れていってくれました。今でもそのお店が大好きです。父の命日にはそこへ行き、いつも食べていたメニューを注文します。串の一本一本に思いが詰まっています。きつと私だけではないと思います。
 (大分県中津市・58歳女性)
 *今号には主人行きつけの「しやん」が載っていて、じっくり読ませていただきました。昔ながらの喫茶店の特集などいかがでしょうか。
 (小倉南区・69歳女性)
 *いつも楽しみに拝読しています。今号を見てもやきとりが食べたいな

くなり、「かさ岡」に冊子を片手に伺いました。想像以上に美味しく、ポトルまでキープして帰りました。
 (小倉北区・49歳女性)
 *北九州出身の人から「北九州を知るなら『雲のうえ』を読みなさい」と言われ、送ってもらったことがきっかけで知りました。やきとり特集は、その土地に根ざした温かみのあるお店の数々に大変興味を引かれました。次回はやきとりツアーをするために、北九州に行かねばと思っています。
 (神奈川県川崎市・33歳女性)
 *女性が一人でも入ることができるお店特集などしていただけたらうれしいです。「焼とりとんとん」です。
 (福岡県遠賀郡・43歳女性)
 *やきとりが大好きなので、興味深く拝読しました。機会があれば「きんちゃん」のフルコースをぜひ食べてみたいと思います。
 (群馬県安中市・51歳男性)
 *いつの時代でもやきとりの味はすたれない、飽きません。読んでいるだけで、中身を飲みながらやきとりをほおばるイメージが頭に浮かんでくる!
 (埼玉県川口市・71歳男性)

おたよりをお待ちしております。綴じ込みはがきをご利用ください。掲載させていただいた方には、小さな記念品を差し上げます。
 (群馬県安中市・51歳男性)
 *いつの時代でもやきとりの味はすたれない、飽きません。読んでいるだけで、中身を飲みながらやきとりをほおばるイメージが頭に浮かんでくる!
 (埼玉県川口市・71歳男性)

次号予告

おすすすき?



最新の発行情報は、北九州市にぎわいづくり懇話会ウェブサイト (<http://lets-city.jp/>) でお知らせしていきます。

***バックナンバー**

- 『雲のうえ』26 特集: 工業都市の工業学校。
- 『雲のうえ』28 特集: 雲のうえ旅行社。
- 『雲のうえ』29 特集: 北九州、市民の水。



「雲のうえ」30 特集: 北九州やきとり豚バラ日記

◎『雲のうえ』を送付希望の方は、お名前、ご住所、連絡先の電話番号、ご希望の号を明記のうえ、1~2冊/250円分、3~4冊/390円分の切手を同封してお送りください。送付は1名様1号あたり1冊とさせていただきます。市のHPで在庫状況を確認のうえ、お申し込みください。
 ☎ 802-0001 北九州市小倉北区浅野 3-8-1
 ☎ 093-551-8152
 北九州市産業経済局 MICE 推進課
 『雲のうえ』送付係



ニーズに合わせてリーズナブルに
地域の交流広場



クレカ若松 貸出中!



〈使用イメージ〉



ダンス・ヨガ・フィットネス
鏡張りの贅沢空間でテンションUP



マルシェ・ワークショップ
テーブル、イスなど備品も充実



同窓会・忘年会などのパーティー
アルコール・ケータリングもOK!



講演会・セミナー
スクール形式で最大210名収容



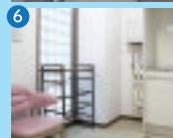
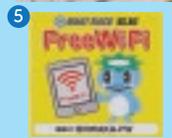
発表会・お遊戯会
晴れの日の舞台にも



子ども食堂などの地域事業・イベント
広い無料駐車場で参加者も安心

おすすめPOINT

- 1 市民ホール・多目的ホール・小会議室など全6室
- 2 使用料は空調・備品・消費税込みの低額設定
- 3 キッチン完備で手作りイベントにも便利
- 4 パーティに活躍、カラオケセットも無料
- 5 全館WiFi完備で通信ストレスなし
- 6 子連れイベントに優しい授乳室完備



クレカ若松は、ボートレース若松敷地内に、ボートレース事業の振興と地域貢献を促すことを目的に建設された施設です。

北九州市若松区赤岩町13-1(ボートレース若松敷地内)
利用可能時間 9時～22時

2000台の無料駐車場完備(ボートレース若松駐車場利用)
その他詳細や、ご利用に関するお問合せはお気軽に



お問い合わせ先 **BOATRACE 若松・クレカ若松受付**
TEL (093) 791-3449 (10時～20時)



ボートレース若松の収益金は、北九州市の子育て環境や教育の充実、文化・スポーツ振興などにつながる事業の財源の一部として活用しています。